

高橋常男教授就任祝賀会

平成16年6月12日(土)7時より、高橋常男教授就任祝賀会が、横浜ベイシエラトンホテルにて、多くの出席者のもと開催された。教授就任は昨年の事だが、5月に第1回のサイナスシンポジウムの開催があった為それを待っての開催となった。当日は、日本歯科医学会会長・日本大学教授斎藤毅氏、神奈川県歯科医師会会長・大森一昌氏、神奈川歯科大学学長・飯塚喜一氏、日本大学名誉教授・上田眞太郎氏、神奈川歯科大学教授・梅本俊夫氏らが祝辞を述べ、藤田会長の挨拶と乾杯で祝の宴が始まった。宴会は成長発達し科学講座の長谷川信君をリーダーとするジャズバンド演奏や横須賀マンドリンクラブのマンドリン演奏、一際目を引いたのが松本歯科大学教授の吹き矢のデモン

ストレーションなど華やかで、楽しいパーティーとなった。最後に6回生を中心とする高橋常男教授を囲む会「常翔会」の小野理会長の挨拶で祝宴は終了した。



教授就任の挨拶

この度、平成16年4月1日付にて医科学講座教授に就任致しました。昨年の4月に外科学助教授としてこちらに赴任したばかりの新参者です。私は昭和54年3月に北里大学医学部を卒業し、医師になって今年で26年目になりますが、平成元年から10年間、北里大学医学部の専任講師として医学部学生の教育に携わった経験があります。その時の経験を生かし、17年間の任期を全力で本学歯学部学生の教育に尽くす所存であります。これからの歯科医師は歯科の知識・技術のみでなく、医学的な知識・技能も身に付けておく必要があります。緊急時のプライマリーケアができなければなりません。また、知識や技術だけではなく、患者さんに対する思いやりのある言動・態度、医療者としての人間性も身に付けておくことが重要です。本学の卒業生がこのような立派な歯科医師となって社会に貢献できるように教育・指導を心掛けていきたいと思っておりますので、同窓会の皆様方のご支援・

医科学講座 外科学分野

塚本 秀人



ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、本学同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念し、簡単ではありますが挨拶の言葉とさせていただきます。

略歴

1979年 北里大学医学部 卒業
1979年 北里大学病院 外科研修医
1981年 北里大学病院 外科病棟医
1984年 北里大学医学部 病理学助手

1987年 学位取得（医学博士）
 1987年 国立相模原病院 外科医員
 1989年 北里大学医学部 専任講師（外科学）
 1999年 澁野辺総合病院 外科部長

2003年 神奈川歯科大学 外科学助教授
 2004年 神奈川歯科大学 医科学講座教授

この度、4月1日付けで、社会歯科学講座教授を拝命致しました。国家試験や登院前の共用試験において社会歯科学分野の教育内容の充実が求められているこの時期に教授に就任したことは極めて意義深く、その責任を重く受け止めております。本講座は、私が担当する歯科医療社会学分野と法医学分野から編成されており、教育ならびに研究を通して分野の特徴を生かしていきたいと考えています。

教育面では、国家試験出題基準や共用試験のガイドラインにある「医の倫理」、「歯科関連法規」、「受療行動」、「歯科医療管理」、「医療訴訟」、「歯科医院経営」などの教育とともに、来年度からの新カリキュラムでは、1年生時に歯科医学生および医療人としての良識の習得を目的に「医療人間科学」を、また、3年生時には社会と医療を結ぶ医療制度などを学ぶ「歯科医療社会学」を開講します。

研究面では、以前から進めてきたフッ化物洗口、高齢者へのフッ化物応用、歯科医療の需給問題とともに、厚生労働省科学研究の「タバコと国民医療費」ならびに「骨粗鬆症の予防を目的としたフッ化物と骨再生の分子生物学的研究」などの政策的

本年1月1日に定年退職いたしました木戸光前薬局長の後任として附属病院薬局長に就任いたしました。自己紹介を含めご挨拶させていただきます。

前薬局長は学校開設当初から約40年勤められ、薬局長は私で2代目です。私は平成5年2月神奈川歯科大学に就職いたしましたので、まだ11年そここの若輩の身です。どうぞ宜しくお願い致します。この間に、やはり縁があったようで長男が入学し、お世話になっております。

現在の医療環境は大きな変換期にさしかかって



**社会歯科学講座
 歯科医療社会学分野
 平田 幸夫**

研究に取り組んでいきます。

最後に、3月まで口腔衛生学教室に勤務してきましたが、この間、同窓会の皆様には大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。そして、分野は変わりましたが、今まで同様に、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

略歴

1980年 神奈川歯科大学卒業
 1980年 同 口腔衛生学教室助手
 1995年 同 口腔衛生学教室講師
 2001年 同 口腔衛生学教室助教授
 2004年 同 社会歯科学講座教授
 （歯科医療社会学担当）



**神奈川歯科大学
 附属病院薬剤科
 遠山 邦子**

おり、さらに利用者の権利意識の増大につれトラブルの頻度や医療機関の選択も激化してきております。また医療の安全性やリスク管理、情報開示

も求められおります。このような状況のもと教育機関としての大学附属病院及び地域の専門的基幹病院として、微力ながらより良い医療提供を行うべく病院内はもちろん地域医療機関との連携や利用者サービスにつとめ、院長はじめ他のスタッフと協力して業務遂行をしまいたいと考えております。

最後になりますが、同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念すると共に、皆様のご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます。

略歴

学歴 明治薬科大学薬学部卒業
 明治薬科大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程終了
 薬剤師・臨床検査技師・衛生管理士
 職歴 1973-75年 IMS Japan Co.Ltd.
 1976-78年 佐藤製薬株式会社
 1979-92年 神奈川県内の中規模病院
 1993年2月神奈川歯科大学附属病院

退任にあたって

去る3月末で神奈川歯科大学を定年退職いたしました。在職期間は2年と決して長くはありませんでしたが、横浜研修センターの開設の時でもあり、充実した毎日を過ごすことができました。この2年間、横浜だけではなく横須賀でも教育棟が次々と完成し、大学の発展には眼を見張るものがありました。在職中、大学及び同窓会の先生方から賜りましたご厚誼に改めて御礼申し上げます。また退職に際しては皆様から行き届いたお心遣いをいただきましてありがとうございました。

退職後も嘱託として大学にお世話になり、横浜クリニックで内科の診療に従事しています。歯科と比べると医科の受診者数はまだまだ少ないですが、徐々に増えつつあります。施設としての規模は大病院と比べると小さいですが、それだけに高



内科学
神田 直

い医療レベルを維持しながらきめ細かな診療を行うこともできます。人間ドックもあり、最新の診断医療機器も整っていますので、同窓会の先生方やご家族の方々にも是非ご利用いただければと思います。

神奈川歯科大学及び同窓会の今後益々のご発展を願っています。

温かく迎えられて

本学は今年4月に創立40周年を迎えました。そして私は、その節目の年の1月に定年を迎え、ほぼ40年に亘る本学での勤務を無事終えることが出来ました。

私の存在を重く受け止め、温かく接し続けていただいた40年。人間としてこれほどの幸せはありません。私は初代院長堀武先生との出会いでそのことを強く印象付けられました。

堀先生の「基礎を大切に」との教育方針に従っ



前薬局長
木戸 光

て16年を共に歩み、私自身の判断力の基礎を作り上げようと懸命でした。お陰で先生亡き後の24年

間を心の支えを失うことなく歩み続けて来られたと思っています。

いま、本学も各分野から多く逸材が参与する職能集団となりました。その集団の指導者に選ばれる方は、誰にもそれを納得させ協力を惜しまぬ思いを抱かせる方々ですが、時にはその立場や地位を望むあまりに自分の能力を客観視する目が鈍ってしまう方がおられます。私は、現在、本学を運営される方々の卓越した指導力に感謝いたしつつ、将来に備えて堀武先生が遺されたお言葉をここに

掲げさせていただきます。

「本学の学生には、目から鼻に抜けるような気の利いた者はいない。私にはそのことがかえって頼もしく感じられる」

初代院長、二代目学長、日本女子短期大学学長でもあられた堀先生からすべての本学関係者への、なんと愛情と信頼に満ちたお言葉でしょうか。

なお、私は本年4月より、額顔面外科学講座(久保田英朗教授)の研究生として臨床現場を身近に見学させていただいております。

退職教授謝恩新任教授就任 祝賀パーティを開催

7月10日総会終了後、さいか屋横須賀南館にて退職教授謝恩、新任教授就任祝賀パーティーが開催された。

藤田会長の挨拶の後、本学を退職された内科学教授の神田直先生、附属病院薬局長の木戸光先生が紹介された。会長より感謝状並びに記念品の贈呈が行われ、両先生方の謝辞へと移った。

続いて新任教授として、人体構造学教授の高橋常男先生、医科学講座教授の塚本秀人先生、社会歯科学講座教授の平田幸夫先生が紹介され、記念品の贈呈、ご欠席の平田先生を除く両先生よりご挨拶をいただいた。退職された先生からは、懐かしい思い出話やこれからの抱負が、新任の先生か

らは、現況とこれからの活動などについて語られた。

また、この度副学長になられた梅本先生よりご挨拶いただき、大学の現況と今後の展望について熱意を持って述べられた。

栃内代議員が乾杯の音頭取られ、和やかなうちに宴は進行した。

木戸先生からは40年に及ぶ薬局の歴史とその思い出をまとめられた記念誌の完成が紹介され配布された。

最後に相原副会長の閉会の辞で、盛会となったパーティーも終了した。

